学校だより　　学校スローガン「殻を破れ！一歩前へ」

西有家中　No９

令和４年　９月１５日
南島原市立西有家中学校
校長　本多　洋二

実りの秋、成長を願う２学期！

２学期がスタートし、２週間が経ちました。生徒たちは、授業に、部活動に落ち着いた生活ができています。

９月も中旬になり、通勤途中の田んぼを見ると、黄金色の稲穂が実り、頭を垂れている傍らの畦道に彼岸花が勢いよく咲いています。この光景が秋の訪れを感じさせます。

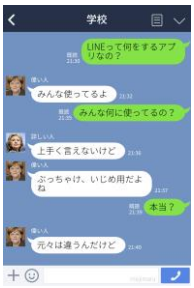
秋は収穫の秋、実りの秋と言われます。西有家中の子どもたちも大きく成長し、実り多き２学期にしてくれることを心から願っています。特に２学期は体験学習や行事が多い学期です。行事や体験学習を通して、積極性や思いやり、あいさつや返事など、その時だけではなく、行事や体験学習が終わった後も当たり前のようにできる「本物」を身に付けた「西中生」になってほしいと思っています。

『あいさつ・返事・後始末』この３つのことを２学期は重点項目として取り組みます。ご家庭でも、ご協力をお願いします。

ホームページもご覧ください！

市のホームページの中に西有家中学校からのお知らせのコーナーがあります。学校便りを掲載していますので、ご覧ください。下記 QR コードからアクセスしてください。すぐに見られます。

LINE トラブルについて



今、コミュニケーションツールとして爆発的に普及している無料電話アプリ、ＬＩＮＥ(ﾗｲﾝ)。便利に利用されている LINE ですが、便利な反面、「LINE トラブル、LINE いじめ」も多発しています。

ここでは、多発している LINE トラブルについて紹介します。他の学校で起きた事案です。

１、既読・未読機能による仲間外し

メッセージを読んだら「既読」の表示が出るが、友達だったらすぐに返信するのが当たり前と、イライラし友達関係が悪くなり、グループから外された。

２、文字の誤解からのいじめ

グループで「映画見に行こうよ」という誘いに、相手が「何で来るの？」と返信すると、交通手段を確認するためのメッセージにもかかわらず、「何であんたが来るのか」と意味を勘違いし仲間外れにされた。

服のセンスを褒めようと思い、「服のセンス良くない？」と送信したつもりが、「？」を付け忘れたために言い争いになり、いじめにあった。

３、閉ざされた空間によるいじめ

ＬＩＮＥは閉ざされた空間のため、正論が全て通るとは限らない。腹が立つと思ったら、正論を言った相手をみんなで潰してしまう。

気にくわない子を外したＬＩＮＥグループ、裏グループをつくり、みんなでその子の悪口を言って、実際の人間関係でも孤立させる。

「安川雅史著（全国 WEB カウンセリング協議会理事長）」

ＬＩＮＥは常にグループトーク機能を通して複数メンバーと同時にやり取りが可能ですので、学校での会話が自宅まで持ち込める利点があります。しかし、反面、顔が見えない状態でやり取りをしますので、上の１、２のように誤解や行き違いが起きる可能性もあります。このような些細なことがきっかけで、仲が悪くなると、帰宅しても、同じ状態が続いてしまうのです。（裏面に続く）

子どもをＬＩＮＥいじめやＬＩＮＥトラブルから守るためには、大人がＬＩＮＥの利便性と問題点を十分に理解した上で子どもたちに教育し使用させなければなりません。便利なものも使い方を誤ると凶器にもなります。

好奇心旺盛でありながら、判断力に乏しい中学生だからこそ、我々大人が、情報モラルについては一層力を入れ、守っていかなければなりません。一旦スマホや携帯を持つと、子どもの力では、制御できません。したがって、親が使い方についてはルール作りをし、制御するようにしなければ、依存症になってしまいます。

ブレークコーナ

自分の考えや人の受け売りです。 気軽にお読みください。

『志・目標を持つこと』

こんな話がある。一人の男が森の中で道に迷った。彼は自分の力に自信があったので、少しも不安や恐怖を感じることなく、ひるまずに歩き続けた。森は広くても果てしないものではない。しかし、何日歩いてもさまよい続けるばかりだった。男は立ち止まってふと見ると、最初に迷った場所だった。男は座り込んでしまった。また、別の男も森に迷い込んだ。この男はじっくり考えた。そして、空を見上げて目標の星を見つけた。その星を頼りに方向を決めて歩いた。男の心にはいつも目指すべき星が照らされていたので不安は感じなかった。星が何かをしてくれたということではない。星は男を照らし、男はそれを道しるべとして歩き続けたのである。

生徒の皆はこの話から何を学び取るだろうか、迷ったときや苦しいときに見上げる星というのは、皆にとって何だろうか。「志」とは「自分が達成を目指している目標」である。その志、目標こそが、迷ったときや苦しいときに見上げ、皆を助け導いてくれる星ではないだろうか。

あいさつの充実を目指して

２学期になって、あいさつを充実させるため、西有家中生徒会が提唱するあいさつ５原則を提示しながらあいさつ運動を行なっています。「西有家中生しかできないあいさつ」を目指し、この５原則の徹底を図っています。

＜あいさつ５原則のフリップを持ってあいさつ運動を行なう生徒会＞

あいさつ５原則とは次の５点です。

あいさつ５原則

１、目を見て
２、立ち止まって
３、笑顔で
４、大きな声で
５、頭を下げて

生徒集会！オンラインで実施

新型コロナウィルス感染防止の観点から密を防ぐために生徒集会をオンラインで実施しました。生徒会役員が２年５組の教室でパソコンを使って活動目標や活動報告を行い、他の生徒は、各学級のモニターに映された映像をリアルタイムで見る形で実施しました。生徒の皆は、真剣に聞いていました。

＜タブレットに向かって話をする生徒会役員＞

＜真剣にモニターを見る学級の生徒たち＞